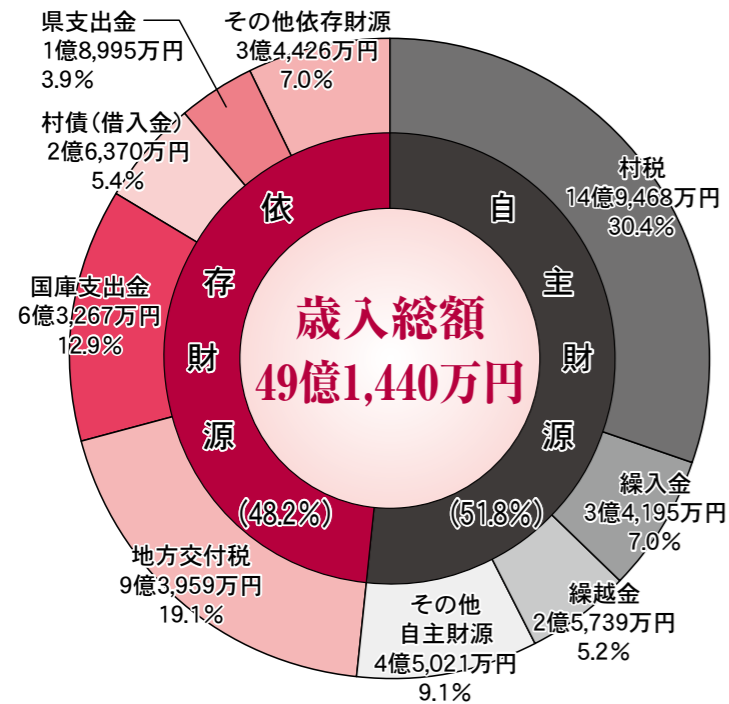


平成29年度
決算認定
賛成9・反対2

ときわ台南住宅 団地 造成完了 早期完売

一般会計歳出
46億9,658万円
(前年度比10.8%増)



◆ 監査委員審査意見 ◆

◎審査結果

- ①財政運営及び資金収支は効率的に行われた。
- ②村税収入は伸びており、財政力指数(0.733)も向上した。
- ③経常収支比率は、扶助費の増額により103.2%に上昇している。(本来は75%以下が望ましい)
- ④財政計画の立案と経費削減を図り、効率的な財政運営に努められたい。



住宅建設が進むときわ台南団地

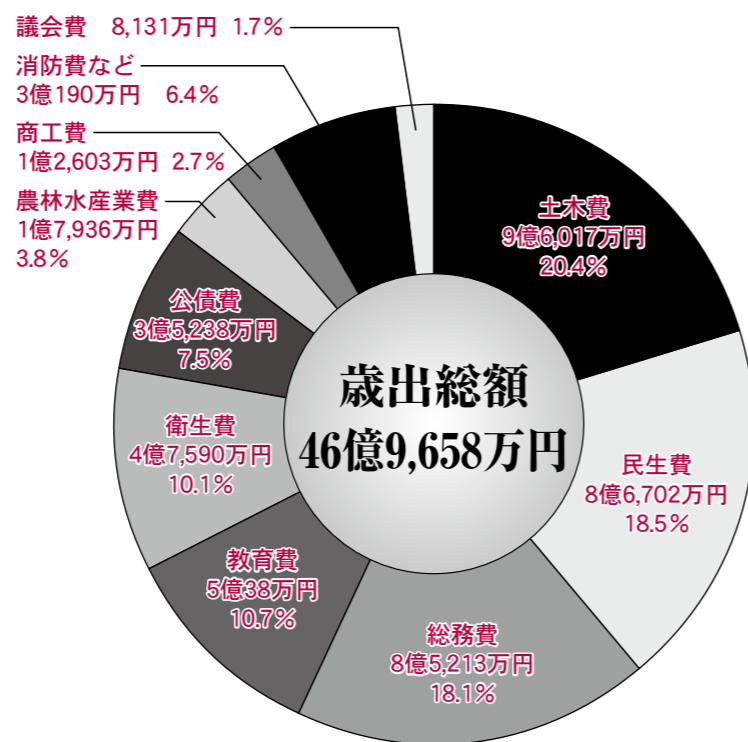
平成30年第3回定例会は、9月4日から13日までの10日間にわたり開かれました。
村長提案案件は、教育長の選任同意1件、教育委員の選任同意1件、条例改正2件、規約変更1件、平成30年度補正予算7件、平成29年度各種会計決算認定8件の全21議案が提出され、全て原案どおり可決しました。

そのほか健全化判断比率並びに資金不足比率の状況については1件報告されました。
議員からは議員定数削減の条例改正1件が提出され、原案どおり可決しました。
一般質問は7人の議員が登壇しました。12ページから18ページに掲載しております。

◆ 監査委員審査意見 ◆

◎改善点・要望点

- ①平成29年度一般会計繰越未納額は8,161万円と昨年度より196万円増加している。税務課内に徴収対策室が設置されたが、その機能を果たしていない。しっかりとした滞納縮減に努めること。
- ②土地開発基金で取得した土地が活用されておらず、基金運用を妨げているので、有効な土地利用をされたい。



◎各種会計別決算◎

会計別	歳入決算額	歳出決算額
特別会計		
国民健康保険事業	6億2,860万円	5億7,980万円
下水道事業	3億1,420万円	2億9,646万円
介護保険事業	5億6,212万円	5億4,139万円
戸別合併処理浄化槽	3,764万円	3,667万円
後期高齢者医療	5,236万円	5,092万円
宅地造成事業	6億5,621万円	5億9,934万円
水道事業	2億3,495万円	2億2,568万円

決算
質疑

決算を厳しく審査



佐々木金彌委員長

平成29年度各種会計決算審査のため、決算審査特別委員会（委員長 佐々木金彌・副委員長 文屋裕男）が6日間にわたり開かれました。

特別委員会では、各課長などに質疑を行い、慎重審議した結果「認定すべき」と決定し、13日の本会議で議長に報告しました。

主な質疑

児童館の指定管理

問 児童数に対し児童館が狭いという状況をどう認識しているのか。

答 将来的には増築等を含めた改修を検討する。

問 運営委託料が前年度比で約400万円増額となっているが、その根拠は。

答 概ね児童30名に対し1名の職員を配置するという基準のもと、これまで3・5名だった配置人員を5・5名に増員した。

社協への補助金増額

問 大衡村社会福祉協議会への補助金を約1000万円増額したのはなぜか。

答 将来的な社会福祉協議会の体制強化として、新たな人材育成をしなければならぬ時期に来ており、そのために職員を増員したことで、人件費を増額した。

高齢者等タクシー券

問 対象者と交付率は。

答 対象者716名に対し、申請者201名、申請率は28・1%となっている。

問 対象者をどう把握しているのか。

答 対象要件である年齢、介護認定、障害者手帳保持者の合計人数で把握している。

問 交付者の利用状況は。

答 半分以上利用している方が交付者全体の52%、まったく利用していない方も22%ほどいる。

図書支援員への交通費過払い

問 中学校図書支援員に交通費が誤って支給された。これまでも教育委員会の事務処理ミスがたびたび指摘されている。今後の対策は。

答 事務執行のチェックシートを作成し、課内体制を強化していく。

万葉クリエートパークの利用状況

問 多額の自主財源を投入して公園管理費を賄っている状況をどう捉えているのか。

答 公園の利用者は、推計だが9割以上が村外の方だと思われる。

このような状況を踏まえて、費用対効果も含め、検討の必要があると認識している。

問 遊具の使用料や駐車料金の徴収などは検討したのか。

答 駐車料金の徴収は施設整備に伴うため難しい。

使用料等については、条例の改正や指定管理の見直しが必要になってくる。先進事例を調査し、実行可能な方法があるか検討している。



建設中の誘致企業工場

企業誘致活動

問 企業訪問のための旅費が約144万円計上されているが、その内訳は。

答 企業立地セミナーへの参加や38社の県外企業を訪問した。

村長をはじめ職員が、新規の企業訪問や立地企業への増設の働きかけを実施している。29年度は好調な電気関係会社を集約的に訪問した。

割り増し商品券

問 商品券の発行額と販売先はどこか。

答 2000セットで発行総額は2400万円。商工会で483セット、万葉おひら館で1517セット販売している。

問 購入者がどこで買い物等をしたか確認しているのか。

答 使用先店舗までは把握していない。



県外からも利用客が訪れる万葉クリエートパーク

決算審査特別委員会



村内工場で生産された低公害車

消防団員の募集

問 消防団員数の推移をどう分析しているか。

答 これまで150名台で推移してきたが、入団者より退団者が多いため、減少傾向にある。今年度は8名の新規入団者があった。

問 かつては200名ほどの団員がいたこともある。増員に向けて募集方法を検討しているのか。

答 広報や成人式等で加入促進を図っている。OB団員46名の協力もいただき、消防団活動を充実させていきたい。

小学生通学台宿

問 実施時期が計画より大幅に遅れて平成30年2月になり、日程も3日間に短縮したのはなぜか。

答 年間生涯教育事業の進め方と職員の配置等の問題で、実施時期が遅れ、日程も縮少せざるを得なかった。今年度は昨年度の反省も踏まえ、計画通りの時期に実施した。



冬期間の実施となった通学合宿

ふるさと納税

問 寄附金が418件あったが、寄附者の居住地は。

答 宮城県内26名、東北(宮城県除く)8名、北海道13名、関東221名、中部49名、中国12名、近畿58名、四国5名、九州26名であった。

問 586万円の寄附のうち、諸経費を除いた村の収入はいくらか。

答 返礼品に151万円、ポータルサイトへの手数料が75万円、諸経費で39万円ほどかかっており、村の収入は約322万円となる。

住宅太陽光発電・低公害車への助成

問 当初予算額に対する申込み状況は。

答 太陽光発電は予算額1000万円に対し、実績が159万円。低公害車は予算額100万円に対し、実績が26万円であった。

問 村内工場製品が優遇される制度ではなく、助成を受ける住民のためになるような補助制度の見直しが必要ではないか。

答 制度の見直しも含め総合的に検討していく。

障害者の雇用

問 障害者雇用促進法の規定に基づき、大衡村役場で雇用すべき障害者は何名か。

答 雇用すべき人数は各部署ごとに算出する。教育委員会には人数が少ないため雇用枠はない。村長部局では1名雇用することになっており、現在1名を採用している。

生ごみ収集モデル事業

問 この事業はいつ始まったのか。現在休止中のこの事業についてどう総括しているのか。

答 平成23年度に開始した。費用対効果が高いとは言いがたいが、環境面での成果はあったと考えている。

問 生ごみの出し方には細かい指定があり、住民や職員が分別に苦労してきた。事業のあり方を検証すべきでは。

答 新エネルギー委員会に休止に至った経緯を報告し、今後の方向性について検討する。

住宅使用料の滞納

問 収入未済額は256万円だが、収納率は平成28年度と比べ向上したのか。

答 平成29年度の収納率は98.6%で前年度より若干向上した。

問 長期滞納者の占める割合が大きいため、具体的な収納率向上策を検討する。

答 機構改革で徴収対策室を設置した。その機能を発揮させ、徴収に努めるべきでは。

問 水道や税など複数課にまたがる滞納者に対し、外部のノウハウも取り入れながら、連携して対応していく。



生ごみ分別作業を行う役場職員

総括質疑

さらに詳しく

入札辞退者への指名見直しを

文屋 裕男 委員

問 指名競争の入札において、辞退者が非常に多い。ひどいものでは5者を指名して4者が辞退した入札もあった。これでは競争原理が働かず、談合すら疑われる。指名願を提出している以上、業者にも入札を受ける責任がある。辞退が続くようなら業者選定を見直すべきではないか。

答 平成29年度は66件の事業で入札を執行し、うち19件で35者から入札辞退届があった。復興事業やオリンピック関連事業による人手不足等で入札辞退は全国的な問題となっている。

副村長を委員長とする契約業者指名委員会では実績等を総合的に勘案し、業者の入札替え等を行っているが、辞退理由をさらに精査して、業者指名を行うよう指示する。

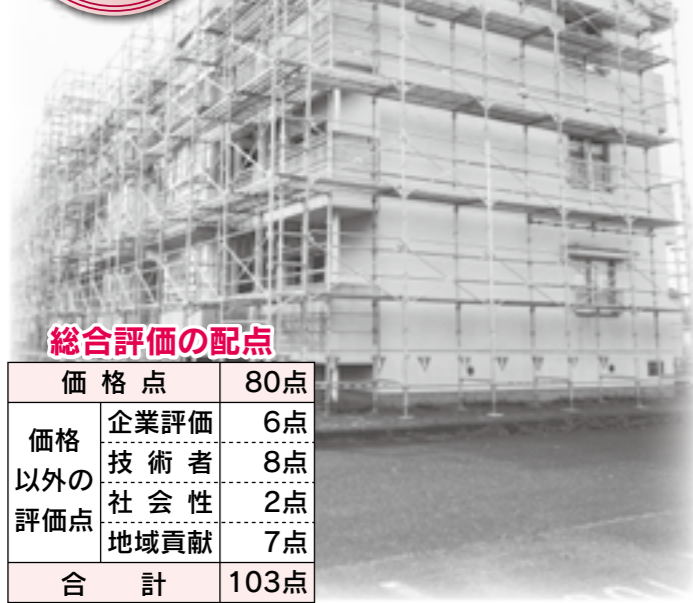
一般会計委員会採決
賛成8・反対2

認定すべきと決定

特別会計7会計も認定すべきと決定

契約締結

五反田住宅1・2号棟改修工事
総合評価落札方式による一般競争入札



契約目的	平成30年度五反田住宅1・2号棟改修工事
契約方法	条件付一般競争入札(総合評価落札方式)
契約金額	1億3,273万2,000円
契約相手	丸か建設株式会社

総合評価の配点

価格点	80点	
価格以外の評価点	企業評価	6点
	技術者	8点
	社会性	2点
	地域貢献	7点
合計	103点	

主な質疑
総合評価方式の入札
問 3者入札して、最も金額が高い業者が落札しているが、総合評価の結果か。
答 1者は最低制限価格を下回ったため失格している。2者の間で総合評価を行ったところ、入札額は130万円ほど高かったが、価格以外の評価点の差で丸か建設が落札者となった。

平成30年度
補正予算

一般会計ほか6会計を補正
定住促進補助金を4,000万円増額

会計別	補正額	予算額	
一般会計	3,068万円	44億8,947万円	
特別会計	国民健康保険	1,180万円	5億2,465万円
	下水道	予算の組替	3億 870万円
	介護保険	2,342万円	6億 289万円
	戸別合併浄化槽	予算の組替	4,050万円
	後期高齢者医療	208万円	5,468万円
	宅地造成	6,163万円	7,503万円

主な質疑
定住促進補助金
問 ときわ台南の住宅建設に伴う補正なのか。
答 現在、ときわ台南では80棟を超える住宅工事が着工している。当初想定していた30棟を上回る70棟が、年度内に補助金の交付対象になると判断した。

教育長・教育委員の選任

大衡村教育委員会教育長、教育委員を選任することについて、議会の同意を求められ、無記名投票による採決の結果、同意しました。

なお、2人とも再任となります。

任期	庄子教育長	H30.10.1~H33.9.30 (3年)
	渡邊教育委員	H30.10.1~H34.9.30 (4年)



教育長
庄子 明宏氏
賛成10：反対0



教育委員
渡邊 勇氏
賛成9：反対1

議員定数

議員定数は14名 → 12名

次回選挙から定数を2名削減



◎議案提出者
議会活性化特別委員会
●特別委員会に所属する11名の委員全員による提案

議員定数の推移

期間	定数
昭和30.4.30~平成19.4.29	16名
平成19.4.30~平成31.4.25	14名
平成31年4月選挙より	12名

賛成 11(全会一致)

原案可決

議員報酬

特別職給料等審議会の答申に基づき

議員の報酬月額を約15%増額

議案提出までの経緯

◎議会活性化特別委員会
12回の審議を経て要望額をまとめる
議会から村長へ要望書提出(H29.1.11)

◎執行部
額が妥当か検討し、執行部案を作成
執行部案を審議会に提出(H30.7)

◎特別職給料等審議会
構成委員：村長が指名した村民(5名)
執行部案による増額が妥当と答申

	改選後の報酬月額	現行額	増額分
議長	306,000円	267,000円	39,000円 (14.6%増)
副議長	249,000円	217,000円	32,000円 (14.7%増)
議員	234,000円	204,000円	30,000円 (14.7%増)

議会は活動実績に基づき21%増額を要望したが、執行部では全国町村議会議長の基準(村長報酬比で議長40%、副議長33%、議員31%)に基づき15%増額を提案した。

賛成 10・反対 1

原案可決

反対討論
遠藤 昌一 議員
報酬が少ないというが、過去に定員に満たなかったことはない。研修目的費用も別に十数万円計上されているのに、15%増額は多すぎる。

主な質疑
問 改正額が議会の要望額より下回った理由は。
答 定数改正後(12名)の議員報酬総額が、現在(定数14名)の総額を超えないよう、要望額の7割に留めた。
問 議会は昨年11月に要望書を提出したが、審議会開催は今年の7月である。なぜ期間が空いたのか。
答 審議会を開催する時期をつかめず、期間が空いてしまった。

平成30年9月定例会提出議案 23件

(同意2件、条例改正3件、補正予算7件、決算認定8件、その他3件)

- 同意第 2号 大衡村教育委員会教育長の任命について
- 同意第 3号 大衡村教育委員会教育委員の任命について
同意第2号～3号は9ページに掲載
- 議案第49号 議会議員の議員報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第49号は8ページに掲載
- 議案第50号 大衡村企業立地促進条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第51号 黒川地域行政事務組合規約の変更について
- 議案第52号 平成30年度五反田住宅1・2号棟改修工事の請負契約の締結について
議案第52号は9ページに掲載
- 議案第53号 平成30年度大衡村一般会計予算の補正について
- 議案第54号 平成30年度大衡村国民健康保険事業勘定特別会計予算の補正について
- 議案第55号 平成30年度大衡村下水道事業特別会計予算の補正について
- 議案第56号 平成30年度大衡村介護保険事業勘定特別会計予算の補正について
- 議案第57号 平成30年度大衡村戸別合併処理浄化槽特別会計予算の補正について
- 議案第58号 平成30年度大衡村後期高齢者医療特別会計予算の補正について
- 議案第59号 平成30年度大衡村宅地造成事業特別会計予算の補正について
議案第53号～59号は9ページに掲載

- 報告第 2号 健全化判断比率並びに資金不足比率の状況について
- 認定第 1号 平成29年度大衡村一般会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 2号 平成29年度大衡村国民健康保険事業勘定特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 3号 平成29年度大衡村下水道事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 4号 平成29年度大衡村介護保険事業勘定特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 5号 平成29年度大衡村戸別合併処理浄化槽特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 6号 平成29年度大衡村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 7号 平成29年度大衡村宅地造成事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第 8号 平成29年度大衡村水道事業会計決算認定について
認定第1号～8号は2～7ページに掲載
- 発委第 1号 大衡村議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例の制定について
発委第1号は8ページに掲載



7名の議員が登壇

質問者一覧表

<p>小川 宗寿 ・独居世帯の安否確認について問う ・大衡村の都市計画について問う</p>
<p>石川 敏 ・高校通学費の支援について</p>
<p>小川 ひろみ ・大衡の農業の今後について ・先進安全自動車装置の購入への補助金を</p>
<p>文屋 裕男 ・大衡村鳥獣被害対策実施隊の現状について</p>
<p>山路 澄雄 ・放射性汚染物質（牧草）のすき込みについて、村民の十分な納得を得ないで事業を推進するのは何故か ・中学校テニスコートと大衡村庭球コートの今後の整備計画は</p>
<p>佐藤 貢 ・太陽光発電施設について質す ・空き家対策は進んでいるのか</p>
<p>佐々木 春樹 ・中心市街地整備計画は進んでいるのか</p>

— 議会を —

傍聴してみませんか

皆さんが選んだ議員がどのような質問・発言をしているのか、村の執行部がどのような施策を考えているのか、是非議場で傍聴してみませんか。

お問合せ先:大衡村議会事務局
☎345-6030
✉gikai@village.ohira.miyagi.jp

次の定例会は 12月5日(水) からの予定です

※会議録は議会事務局・ホームページで閲覧できます。

◇9月定例会 採決状況表◇

○賛成 ×反対 議長（細川運一）は採決に加わらない。

議案	石川敏	佐藤貢	早坂豊弘	佐々木春樹	文屋裕男	小川宗寿	高橋浩之	遠藤昌一	山路澄雄	佐々木金彌	小川ひろみ	細川運一	議決結果 (賛成:反対)
同意第2号	無記名投票							欠	無記名投票			—	同意(10:0)
同意第3号	無記名投票							欠	無記名投票			—	同意(9:1)
議案第50号～59号	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	—	可決(10:0)
認定第1号	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	—	認定(9:2)
認定第2号～8号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	認定(11:0)
発委第1号	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可決(11:0)
議案第49号	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	—	可決(10:1)



石川 敏 議員

高校通学費への支援を別の支援策を考えている

議員 本村中学校卒業生の高校への進学状況を見ると、将来の目標や学力だけでなく、通学手段をどうするかも考慮しなければならない面もあるのではないか。

今は公共交通バス路線の多くが廃止されており、大衡村から各高校への通学は不便な状況である。本村からの進学先高校は、



役場前始発の私立高校通学バス

議員 高校教育にかかる費用として、授業料は公立・私立高校とも国費による支援があり軽減されているが、私立高校においては入学金や校納金もあり、保護者負担は多額になる。保護者負担の軽減をはかり、将来の大衡村を担う人材を育てるうえで、高校通学費の支援制度を作るべきではないか。

公立	黒川高校	63名
	富谷高校	13名
	利府高校	5名
	仙台方面3校	16名
	古川方面3校	11名
	その他9校	20名
私立	仙台方面10校	40名
	古川方面2校	14名
合計	182名	

教育長 最近では私立高が増えており、多くの学校が通学バスを運行している、本村の高校生も利用している。平成30年度現在、本村からの進学先は次のとおり。

教育長 高校通学費の支援ではなく、別の面から支援できないか教育委員会でも検討している。

村長 一部の高校生だけの交通費の助成は難しい。公平・平等な施策を検討していきたい。

議員 通学費支援の財源として、収入が増えてきている「ふるさと寄付金」を充てるか、または「人材育成基金」を活用してはどうか。

村長 財源の問題ではなく通学費への支援は考えていない。通学費にかわる高校生に平等にいき渡る支援策を考えている。



小川 宗寿 議員

独居世帯の現況調査を急げ情報を基に把握していく

大衡村世帯数	
全世帯数	2,073
独居世帯	628
高齢世帯	178
要 援 護 世 帯	536 (710名)

※H30.7時点

議員 高齢化が進む中で、隣り近所との関わりは非常に重要である。村が進めている「地域コミュニティ事業」の現状をどう総括しているのか。新しい事業計画はあるのか。

村長 村が区長や民生委員と情報を共有し、支援が必要な世帯には適切な対応をしている。

議員 村として独居世帯の実態をどの程度把握しているのか。民生委員が日常生活を把握するのは困難な状況になっている。セーフティネットを充実すべきである。

村長 自治体として、実情に応じて「医療・介護・予防・住まい」を充実させていく事が大切である。全ての高齢者へ社会参画を促し、地域で暮らし続けるために住民同士の助け合いと地域づくりを進めていきたい。



検討されている商業施設整備計画地

議員 住宅地に商店街を併設し商業系を充実させれば相乗効果が期待できる。ときわ台南住宅団地が早期に完売したが、今後の宅地整備計画をどのように進めていくのか。平成27年3月執行部より示された商業施設整備計画は、その後、どのように検討されているのか。

村長 現在、工業団地内に万葉おおひら館やコンビニが出店している。国道沿線には小規模な店舗が点在しているが、商業施設集積までは至っていない。医療や福祉施設、交通機関との連結を踏まえ、利便性などを考慮し検討していきたい。

これからの大衡村都市計画を引き続き検討する



文屋 裕男 議員

大衡村鳥獣被害対策実施隊の現状について

実施隊の協力に感謝している

議員 大衡村では平成28年10月19日、19名による被害対策実施隊が編成され、辞令が交付された。実施隊の隊員は一年間休むことなくイノシシとの格闘を続けている。

議員



村猟友会の皆さん

村長

平成26年度に1頭を捕獲してから29年度末まで合計51頭、今年度は8月末現在で10頭捕獲している。実施隊の協力によるところが大きい。

議員 数字を實際に示されてみるとかなりの差がある。猟友会等の活動から発展して実施隊になったと思うが、妥当なものか内部で検討してみる。

村長

議員 実施隊員は非常勤特別職の職員で、消防団と同じ身分である。4月1日より翌年3月31日までの辞令を受け活動しているが、消防団と比較して、報酬は10分の1くらいしか支払われていない現状である。

村長 この状況をどう捉えているのか。

産業振興課長 補助金の申請には、領収証の添付が基本になるが、領収証がない場合は、代わりに支出証明書を添付する方法も検討する。

現在、銃砲を持って、止め刺しができる方は5名で高齢者が多い。有害鳥獣対策を進めていくうえで、これからも長く協力してもらえよう、村でも検討していく。

議員

議員 第一種銃猟免許の取得者に対し、村では更新費用の補助を平成28年度より行っているが、これまで一度もこの制度を利用した人はいないと聞く。免許取得者はほとんどが高齢者である。村は、免許更新に補助があることを周知徹底し、申請方法を簡略化することはできないか。



小川ひろみ 議員

大衡の農業の今後について

持続可能な農業を創造していく



ラジコンヘリによる大豆畑への農薬散布

議員 本年産米の直接支払い交付金7500円が廃止され、農業所得減になるのは明確である。村はどのように独自の支援をしていくのか。

村長

交付金の廃止は国の政策である。村としては農業所得の補償という観点ではなく、農地や農業用施設の整備等に対し創設した、農業環境整備支援事業補助金での助成制度で支援していく。

議員

基盤整備はどうしていくのか。

村長

農業委員会の地区懇談会においても圃場や農道、水路等の整備の必要性が話題となっている。整備に係る費用負担がネックである。現在、村内2地区で検討されているので、県と連携して推進していく。

議員

草刈作業などの軽減や高齢者対策として、筋力補助スーツ購入への補助金を考えては。

村長

農地の管理、除草作業が大変であるのが各地区の共通課題である。ワーキングパワースーツやアシストパワーバスタ等の導入も考えていく。

議員

地域おこし協力隊を創設し、情報通信技術(AIやIoT等)に精通した人材を確保することが必要ではないか。

村長

特産品の栽培から販売作業、営業マネジメント業務など行政とは違う柔軟な見方や、地域活性化と移住・定住につながる取り組みとして、地域おこし協力隊などを検討していく。

議員

草刈機の無料貸し出しやスマート農業に向けた取り組みを考えては。

村長

作業者の高齢化や人材不足等で効率的・安全に作業を実施するには、大きな機械が必要であると考えられる。自動ブレーキ付き草刈機の導入と貸し出しを検討していく。

現在、人材センターを設立するために、データ収集とアンケート調査をしている。今後、スマート農業に対応した担い手の農業経営の安定化を図り、持続可能な農業を創造していく必要があると考えている。

※スマート農業

ロボット技術や情報通信技術を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する新しい農業。スマート農業の活用により、高齢就農者の労力軽減や新規就農者の確保などが期待されている。



佐藤 貢 議員

太陽光発電施設について質す 開発指導要綱に基づき対応

議員 本村においても、売電を目的とした太陽光発電施設の建設が増えてきている。最近では大型開発が進み、林地開発の発電施設は土砂災害や環境保全の観点から不安視する声もあるが、村としてどこまで指導・助言できるのか。



土砂流出が心配される太陽光発電施設

村長

開発指導要綱に基づき、開発事業者は開発計画の内容を完全に事前協議することになっている。村では審査を行った結果、問題がないと判断した場合は条件を付して同意をし、開発協定を締結している。

議員 以前、空き家問題に対する取り組みについて一般質問をしているが、その後、実態調査はどのように進められているのか。

村長

空き家に該当する建物は村内に約30件ある。現状、実態については正確には把握していない状況であり、今後詳細の把握に努めていく。

議員 近い将来、ほぼ確実に空き家が増えることが予想される。村としての取り組みをどのように考えているのか。

村長

今年度、空き家実態調査を行い、件数や状況を把握した上で、空き家バンクの開発や空き家を有効活用する移住・定住策についても検討していく。

空き家対策は進んでいるのか 今年度から実態調査を行う

議員 森林伐採による洪水・土砂流出等の危険が予測される。維持管理対策は十分なのか。

村長

開発面積が1haを越える場合は県との協議が必要となる。県の開発指導要綱に基づき、法面保護や排水対策を指導し、災害防止に努めている。

議員 今後、事業者の都合などで、太陽光パネルがそのまま放置されることが予想される。条例を制定する考えはないか。

村長

条例の制定も視野に入れながら、当面は開発指導要綱に基づき対応していく。



山路 澄雄 議員

住民軽視の汚染牧草すき込み データを揃えて手順に問題なし

議員 汚染牧草のすき込みが安全であるとのデータはどこから得たものか。

産業振興課長

村独自ですき込み後のデータは調査していないが、登米市の公開資料を参考にした。

議員 汚染牧草のすき込みが安全であるとのデータはどこから得たものか。

村長

データを揃えて地権者の内諾を得てから議会に報告し、区長会に説明することは手順として問題はない。

議員 放射能汚染牧草のすき込みについては、平成29年9月20日、平成30年2月14日の2回、処理方針・処理方法について関係農家に説明がなされ、内諾を得たとのことであるが、議会には7月10日の全員協議会で初めて計画が説明された。同日午後には処理業者選定の入札を実施。区長会への説明は翌7月11日であり、住民への周知もなされていないのは、議会軽視・住民無視ではないか。



ひび割れの目立つ村民テニスコート

議員 すき込み農地に隣接する地元農家、他市町から来て野菜栽培や大豆栽培を行っている隣接耕作者に汚染牧草のすき込み実施を個別に説明したのか。

産業振興課長

説明は行っていない。

議員 村民テニスコートと中学校テニスコートの整備を求める要望が、村民・中学生の保護者から強まっている。

村長

村民テニスコートと中学校テニスコートの整備を求める要望が、村民・中学生の保護者から強まっている。

村民テニスコート移転を図れ 候補地を3ヶ所検討中

議員 東日本大震災により村民テニスコートは表面に数多くの亀裂が生じている。中学校テニスコートは、コートが縦に並んでいる。多数の部員の練習に対応できているのか。

教育長

国道4号の拡幅工事の具体的計画が示された時点で検討に入るが、保護者、利用者の意見や要望に配慮する考えである。

議員

住民の要望では、これを機に多目的グラウンドへの移転を望む声も強いが、中学校周辺に新しいコートを整備すべきである。

村長

中学生が使用する頻度が高いのであれば、中学校周辺に移転整備するのがベターと考えている。

広報広聴

行政視察
研修報告

視察年月日：平成30年8月20日～21日

山形県 舟形町



最上川と小国川の合流地点にある町。縄文の女神と呼ばれる国宝指定の土偶が出土したことで有名。若鮎の名産地でもある。

モニターの声に答える

◎舟形町議会報モニター

設置根拠	舟形町議会報モニター設置要綱		
選出方法	議長・委員が選考	定員	5名
任期	1年間	報酬	2千円
職務	議会報についての意見を述べる 議会報アンケートに回答する		

モニターに議会広報の改善点や要望事項などのアンケートを実施している。アンケートを単なる参考意見に終わらせないために、回答内容を全て議会広報に掲載している。

表紙から中身を読ませる

◎表紙・裏表紙・記事のリンク

表紙は人物が写った動きのあるものにする。裏表紙には「生声ひろば」という表紙に掲載された住民へのインタビュー企画がある。また、表紙の関連記事を掲載することで、自然と読み進めてもらえるような工夫をしている。

◎議会解体（わかりたい）新書

年に1回程度、見開き2ページを使用して、住民の知りたいことや難解な行政用語を解説する企画。丁寧な解説は住民からも好評。

山形県 庄内町



山形県でも有数の米どころ。「清川だし」と呼ばれる強風を利用した風力発電を行っている。議会広報は全国最優秀賞の受賞歴あり。

◎調査を終えての所感・意見

舟形町議会報モニターは、アンケート結果を広報に掲載することで、モニターには「やりがい」を、委員には「責任」を与える上手い手法だと感じた。本村もモニター導入の検討が必要と思う。

庄内町議会広報常任委員会では「編集発行の概要」という冊子を作成、編集方針や申し合せ事項をまとめ、定期的に全国・県・先進市町村の研修を受けることを規定し、議会広報の質の維持に努めている。本村でもノウハウ等の継承へ向けた取り組みが必要だと感じた。

中心市街地整備計画は進んでいるのか
具体的な計画案を策定していく



佐々木春樹 議員



整備推進が待たれる地区計画区域（五反田地区）

議員
中心市街地整備計画はなかなか進捗が見られないが、今後、村ではどのように整備計画を推進していくのか。

村長
県と協議を進めてきたが、具体的な事業実施が見込めない状況にあり、市街化編入が見送られた。計画の見直しも含め検討していく必要がある。

議員
地区計画区域の開発をどのように誘導し、拡大を図っていくのか。

村長
五反田・亀岡地区計画内にある未利用地部分の整備計画区域拡大を図るため、県と協議を進めてきた。今後は具体的な計画案を策定し、関係者へ説明していく。

議員
村道の新設は検討されたのか。

村長
区域拡大を図っていく中で、村道の新設も検討することになる。

議員
区域外での計画はあるのか。

村長
検討している所はあるが、近隣住民の合意に至っていない状況にある。

議員
県道大衡仙台線の現状と、村のかかわりは。

村長
県道大衡仙台線建設促進協力会（会長大衡村長）で、事業主体である県に早期全線完成に向け強く要望を行っている。

宮床工区の工期が平成32年度にずれ込む見込みとの説明があり、例年より時期を早め要望活動を実施した。今年度からは、立地企業と一体となって、整備の必要性を強く訴えていく。

視察年月日：平成30年7月18日～20日

視察年月日：平成30年7月4日～6日

石川県 かほく市



◎かほく市
石川県のほぼ中央に位置する。市内の砂丘で栽培するブドウ（ルビーロマン）が名産。

水道の包括的民間委託

◎本村とかほく市との比較

	大衡村	かほく市
給水人口	5,762人	34,804人
普及率	98.6%	98.9%
水源	大崎広域水道 100%	県営水道:31% 井戸:69%
水道料※	5,724円	3,456円

◎性能発注方式 ※1ヶ月当り20㎡を使用したと仮定
施設を適切に運転し、一定の性能を発揮できれば「民間業者の自由裁量に任せる」方式。コスト縮減と品質が合わせて確保できる。

演習場対策の取り組み

◎演習場使用協定の締結

自衛隊西部方面総監と「演習場の使用等に関する協定」、九州防衛局と「米軍使用に関する協定」を結んでいる。更新は5年に1回。防衛当局と演習場の使用協定を結んでいる事例は全国で日出生台だけだという。

◎陳情における特色

要望の末尾に必ず「演習の将来的な縮小と廃止」を記載し、住民は防衛施設の存在を望んでいないという意思を伝えている。

大分県 九重町



◎日出生台演習場
4市町にまたがる西日本最大(4,900ha)の演習場。在日米軍の使用も含め、年間で330日演習が行われている。

教育・生涯学習事業

◎小学校英語教育への取り組み

平成29年度よりALTを1名増員し、小・中学校にそれぞれ専属させた。英語や異文化への理解が深まることが期待される。

◎青少年国際交流

オーストラリアの小中高一貫校と交流している。平成29年度は10名が参加、予算は450万円。英語による授業やホームステイを実施。宝達志水町側でもオーストラリアの子ども達の受け入れを行っている。

石川県 宝達志水町



◎宝達志水町
かほく市の隣町。オムライス発祥の地とする説があり、まちおこしに活用している。

◎調査を終えての所感・意見

かほく市は県営水道・井戸11ヶ所と水の確保が容易であり、水道は昭和31年・下水道は昭和58年より整備が進んでいる。包括的民間委託はこういった前提のもとで実現できたと思う。本村では民間委設には課題も多く、検討が必要である。宝達志水町は教育に熱心な自治体である。国際交流事業などは子ども達のグローバルな視野を広げ、心の教育は心の豊かさを育むものと感じた。学校支援ボランティアなども盛んで、町全体が子どもを育てる姿勢を実感させられた。

佐賀県 みやき町



◎子育て支援町営マンション
地域優良賃貸住宅制度を活用して、子育て世帯向けに環境のよい住宅を6棟建設している。

子育て町営マンション

◎PFI方式による住宅整備

PFI (Private Finance Initiative) 方式での住宅整備は、建設から維持管理まで、複数の企業で構成される「特別目的会社」が受注し、町は建物の譲渡を受ける。国の補助や家賃収入で建設費や維持管理費をまかなうため、高い入居率を維持できれば町の支出はない。

◎NPOとの公民連携

町内外を問わず、行政だけでは支援が難しい事業をNPOとの公民連携で実施している。住宅整備についても「全国地域PFI協会」というNPOと契約して事業を進めている。

◎調査を終えての所感・意見

九重町・みやき町とも、本村とはある点において条件の近い自治体である。九重町は本村と同じく演習場が所在する自治体として、交付金の活用や障害防止対策、陳情等の課題について有意義な情報交換ができた。みやき町は近隣に大都市が存在しており、町内の開発行為には制約が多いという点で、本村と似通っている。みやき町が選択したPFI方式による民間資本を導入しての公営マンション建設は、今後の住宅建設・管理のあり方にとって大変参考になると感じた。

調査年月日：平成30年8月9日

調査年月日：平成30年8月10日

鳥獣被害対策実施隊の活動状況 (平成30年4月～6月活動実績)

	活動内容	延べ人数	活動数	活動手当
合計	見回り	30人	188日	527,500円
	罟設置、撤去	18人	28日	
	止めさし	2人	5頭	
	処理等	6人	6日	
	予察捕獲	5人	5日	
	会議、その他	18人	18日	



捕獲されたイノシシ

クリエートパーク長寿命化工事 (ローラーすべり台の更新)

◎アスレチック遊具の更新

名称	長さ	金額
ローラースライダー	35m	2,340万円
チューブスライダー	20m	1,980万円
カヤックスライダー	8m	680万円

※現在のローラーすべり台115mは全て撤去



設置予定のローラースライダー

いじめ防止対策・不登校への対応

◎教育委員会における対策

- ・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの設置
- ・心の支援員の配置（中学校）
- ・速やかな情報提供（国・県・各種関係機関）
- ・大衡村いじめ防止基本方針の策定
- ・いじめ問題対策連絡協議会設置条例の制定

◎学校における対策

- ・積極的な認知と迅速な対応
- ・アンケート、相談活動等の実施
- ・いじめ発見チェックポイント、二者面談
- ・別室登校による個別対応
- ・スクールカウンセラー等による支援
- ・スクールソーシャルワーカーの家庭訪問

◎調査を終えての所感・意見

鳥獣被害対策実施隊の活動状況は2ヶ月間での延べ数であるが、すでに相当な人数と日数が費やされている。イノシシの出没は村内全域の問題となっており、今後のさらなる対策が必要と考える。クリエートパークの遊具更新には5千万円を超える税金が投入される。議論を深める必要がある。学校におけるいじめ・不登校は全国的な課題となっている。スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置や、設置根拠が明確となったいじめ問題対策連絡協議会など、本村の取り組みが今後のいじめ・不登校防止に効果を上げることを期待する。

予約型乗り合いデマンドタクシー (栗原市地域公共交通再編実施計画)



一迫ふれあいタクシー

◎デマンドタクシー導入の経緯

- 1) 住民からの要望
「自宅付近にバス停がない」「バス停まで遠くて利用できない」「バス停から自宅までの歩行が辛い」との意見があった。
- 2) 議会の動き
本会議・全員協議会等で質疑応答を重ねた。
- 3) 栗原市当局の対応
地域内バス路線の利用状況を踏まえ、公共交通再編には乗合デマンドタクシー導入が不可欠であると判断した。

◎地域公共交通網作成計画の策定

- 1) 検討組織：栗原市地域公共交通活性化協議会（平成28年7月1日設置）
委員は大学教授や婦人会、運行業者、警察等で構成（21名）
- 2) 策定経過
 - ・平成28年12月：住民アンケート実施（3千人に配布、回収率53%）
 - ・平成29年1月：庁内関係課、運行事業者、高校等へのヒアリング
 - ・平成29年3月：地域公共交通網作成計画策定

◎地域公共交通再編実施計画（平成31年度～35年度）

バス停までの距離短縮、「空気バス」の解消、利用実態に合った運行を目指す

《広域路線》

基幹路線であり基本的に現状を維持する。運賃は一律100円

《市内連絡路線》

重複路線の見直しや乗り継ぎのためのダイヤ改正を実施。運賃は一律100円

《地域内路線》

乗合デマンド交通に変更。運賃は一律300円。登録料として一人当たり年額1,000円を徴収予定
運行車両は5人乗りセダン・10人乗りワゴンを想定。一般財源を充てて運用する

◎調査を終えての所感・意見

栗原市は10町村の合併により広大な面積を有する自治体となり、住民生活維持のための交通手段を確保する大きな課題に直面した。有効な対策を講じるため、住民の要望を聞き取り、行政主導で学識経験者・交通事業者等に意見を求め、既存の広域バス路線を維持し、市内バス路線の効率化を図りながら、地域路線についてはデマンド型交通を新たに整備するなど、低料金で住民本位の地域交通を模索している。行政が指導力を発揮して住民福祉の向上に努めている姿は、大いに参考とすべきである。

これからの大衡を思う



衡中地区 石川千展さん

私は大衡村の出身ですが、今は県外の学校に通っていて、一人暮らしをしています。

そのため大衡村がとても懐かしく、休みのときなどはよく帰省します。そのときに仙

台・大衡間を走る高速バスを利用して利用しているのですが、とても便利で助かっています。ただ少し欲を言えば、バスの本数が増えたら、もっと便利になると思います。

そして、個人的にですが、仙台だけでなく泉中央までの交通手段もあったら、さらに利便性が高くなると思います。

話題は変わりますが、学校で学んでいる分野に関係があるということもあり、小学校の英語の授業が必須となることにも関心があります。

そこで、子ども達により英語に興味を持ってもらうために、子ども達の目につく場所に英語標記を掲げるといったことを提案したいです。例えば

国道4号の地下道入口に“Under Pass”等を書いたものを貼るなど、子ども達の生活の中で自然に英語が使われたらいいと思います。

安心・安全が

モットーです

代表 石川 日出男さん

おおひら野菜市は、現在あさひな農協大衡支店をお借りして、毎週土・日、朝9時から午後4時までの2日間開店しております。地域の皆さんから早朝に野菜・果物・米などを出荷していただき、安くて新鮮な野菜などを中心に、不揃いでも安心・安全をモットーに提供しています。

設立当初は、大衡村役場入口の空き地をお借りし、 TENT張りから始まって、出荷物収集を無我夢中でやってきて、早30年近くになります。その甲斐もあり、お盆と春秋の彼岸花の販売、そして12月の切り餅加工と大変好評をいただいております。これからも地元農産物を提供することに努めてまいりたいと思っています。

さて秋本番、野菜、甘い果物、新米と取り揃えております。ぜひ足をお運び下さい。

輝く村びと

—おおひら野菜市—



あがき

今年も異常気象が続く、猛暑や西日本豪雨、北海道地震、台風による災害が各地で発生しました。みんなが稔りを喜び、穏やかな日々であってほしい秋です。

石川 敏



大衡村議会

広報広聴常任委員会

委員長 小川 宗寿
広報分科会

会長 小川ひろみ

副会長 佐藤 貢
委員 石川 敏

早坂 豊弘
山路 澄雄

発行責任者 細川 運一
議長